

ラスト5分で学べる環境問題

中学・高校
(中学：社会科)

ねらい・目的



年間を通じて同じ問題について考えることで、環境問題への関心や、生徒の思考が深まることを期待し、日常の授業の発展という形で授業の残り5分を用いる。テーマとして、札幌市のごみ対策の一つである「ごみ有料化」についてさまざまな視点から学習する。

現在検討されている札幌市のごみ減量に関する計画では、2017年度（平成29年度）までに燃やせるごみを年間25万トン減らすために、家庭から出るごみを1人1日当たり400グラム以下とする数値目標が設定されている。また、具体的な施策として普及啓発的な環境教育を学校において取り組むことも明記されている。

取り組みの背景として



札幌市の年間のごみ処理量は2006年度（平成18年度）実績で、85.4万トン（札幌ドーム約5杯分）となっており、ごみ処理費用は年間263億円です。

このままだと

ごみ処理による環境負荷の増大、埋立地不足、ごみ処理費用の増加が起きます。

だから

学校全体でごみの減量、リサイクル活動の推進、環境問題への関心を高めるために、社会科(公民的分野)の授業で環境問題を取り上げていきます。

取り組み項目(実施方法)



下記の6つの視点（単元）から、札幌のごみ問題について考える。

- | | |
|-------------------|----------------|
| ① 第1章 現代社会と私たちの生活 | 3 「食生活の変化」 |
| ② 第2章 人間の尊重と日本国憲法 | 2 「わたしたちの社会生活」 |
| ③ 第3章 現代の民主政治と社会 | 2 「地方分権と住民参加」 |
| ④ | 4 「まちづくりを調べる」 |
| ⑤ 第4章 私たちの暮らしと経済 | 4 「公害の防止と環境保全」 |
| ⑥ 第5章 地球社会とわたしたち | 5 「人口・食料問題」 |

取り組み1

第1章 現代社会と私たちの生活 3 「食生活の変化」

ポイント

- ・インスタント食品や冷凍食品など食生活の変化に伴い、容器包装など家庭から出るごみも年々増加していることを知る。
- ・年間使用するワークシートに、札幌市のごみ問題について考えたことを記入する。

環境問題学習ワークシート
札幌市のごみ問題！
～あなたは 賛成それとも反対～

3年 組 番
氏名

1回目(月 日) → 「食生活の変化」の授業を終えて

2回目(月 日) → 「わたしたちの社会生活」の授業を終えて

3回目(月 日) → 「地方分権と住民参加」の授業を終えて

取り組み2

第2章 人間の尊重と日本国憲法 2 「わたしたちと社会生活」

ポイント

- ・ごみの出し方のルールを例に、分別無視、不法投棄などの問題点にも触れながら、ルールを守ることの意義について考える。
- ・参考資料等を活用し、札幌市のごみ問題について考えたことを記入する。

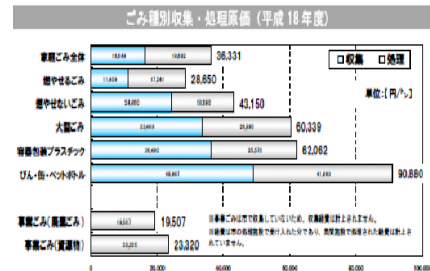
多くの市町村で、ごみの量を減らすことが大きな課題となっています。〇〇市では、ごみの減量を目的に、〇年〇月から可燃ごみ・不燃ごみを有料化しました。(略)

取り組み3

第3章 現代の民主政治と社会 2 「地方分権と住民参加」

ポイント

- ・地方財政の観点からごみ問題を考える。
⇒ごみ袋1個(40リットル)を処理するのに約147円がかかる。年間の処理費用は263億円(2006年度・平成18年度)かかることを知る。
- ・実際にごみステーションでごみ袋を数えてみる。



取り組み4

第3章 現代の民主政治と社会 4 「まちづくりを調べる」

ポイント

- ・他の市町村のごみ問題への対策について知る。
⇒道内の180市町村のうち、155市町村(約86%)が、有料化を実施中または実施予定である。

	燃やせるごみ	燃やせないごみ	容器包装プラスチック	びん・缶・ペットボトル
石狩市	1リットル2円	-	-	無料
小樽市	1リットル2円	-	-	無料
江別市	1リットル2円	-	白色トレイ無料	無料
室蘭市	1リットル2円	-	1リットル2円	無料

取り組み5

第4章 私たちの暮らしと経済 4「公害の防止と環境保全」

ポイント

- ・生活公害の一つであるごみ問題について考える。環境基本法、リサイクル、循環型社会など教科書にも出てくる語句を理解する。

⇒4Rに発展

※教科書の中にも「ごみ問題」の記述が明確にされている単元なので、授業の中でも「さっぽろGOMI マガジン」「SAPPORO REAL ぼくたちの街の風景」などの札幌市の作成したパンフレットなどを利用し、身近な問題として捉える。

取り組み6

第5章 地球社会とわたしたち 5「人口・食糧問題」

ポイント

- ・「食料問題（日本の食べ残し量）」から考える。

⇒家庭ごみ 900 万トン+コンビニ・スーパー700 万トン=総計 1,600 万トンになる。これは、年間の処理費用にすると 6,080 億円となり、埋め立てた場合、札幌市の 80 年分埋め立て量になる。ごみ問題は札幌市の問題だけでなく、全国的な問題だということを理解する。

取り組み効果



効果 1

ごみ問題を入り口として環境問題への関心を高めることができる

この学習は、「ごみの有料化」について賛否を述べることが目的ではない。ごみ問題について考えることで、環境問題への関心を高める一つの入り口にしたいと考えている。プログラムには取り上げていないが、この学習と関連付け、第5章3「地球環境を考える」を取り上げてみることでさらに効果が上がると考えられる。

効果 2

学校や家庭でもごみを減らそうとする

年間を通してごみ問題を学ぶことにより、ごみ問題を多面的に考えごみへの関心や意識が高まることで、学校や家庭でもごみを減らそうという意識が芽生え、行動化できると考えられる。

他のプログラムとのつながり



■ごみ問題を考えよう（中学・高校編）

ごみに関する諸問題を正しく理解し、その解決方法について考える。

■「ごみ」と「資源」の再発見（家庭・地域・職場編）

地域ぐるみで集団資源回収などのごみ減量に取り組み、行動を定着させる。

参考資料等



1 さっぽろGOMI マガジン

http://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/gomi_magazine/

2 「SAPPORO REAL ぼくたちの街の風景」

http://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/sapporo_real/index.html